

### 3 ブロック教育研究会発表記録用紙

英語部

教科・領域	英語	部長	近藤 義隆（大正西）
日時	平成26年9月12日（金）	記録者	後藤 圭見（市岡中）
場所	大阪市立大正西中学校	参加者	30名
講師	大正西中学校英語科教員3名	指導助言者	濱田 良一（教育センター）

#### 1. 研究主題

「ICT機器を利用した授業の実践報告」

#### 2. 研究内容

「大正西中学校のICT機器を活用した授業の取り組みについての実践報告」

3. 実施日 平成26年9月12日（金）

4. 会場 大阪市立大正西中学校

#### 5. 研究発表および研究協議の内容

##### 1 大正西中学校の取り組み（阿部先生、川口先生）

- ・appleTVの紹介

- ・実践内容の報告（k-noteおよびiPadを使用した例）

##### 1. 進出単語練習

発音練習後、文字と絵→文字のみでの読む練習

→絵のみでの読む練習→単語へ

##### 2. Flash English（Flash暗算の要領で）

画面に単語がアトラダムに出てきては消える。それを並び替えて教科書内で使った英文を素早く作り、声に出して読むというもの。

?（クエスチョンマーク）.（ピリオド）が最後であるというルール説明なども行い、参加者が生徒になった気分で取り組んだ。

##### 3. 本読み練習

教科書をscanしたものを付箋のアプリを利用して穴埋めで作成したものを画面を見ながら音読の練習をする。

##### 4. Speaking Test（カメラ機能を使用）

iPadを10台借りたものを使用して、ビデオ撮りし、一番良かったものを生徒が選び、提出。教師にとっても瞬時に評価を行わないため、評価が平等になる利点がある。

※1～4の実際の生徒達が取り組んでいる様子を撮影したビデオを視聴した。

##### ・グループ活動

<1>グループに分かれて、実践報告の内容を利点・課題点を話し合う。

1 & 2班・・・進出単語、3班・・・Flash English、4 & 5班・・・教科書音読  
6班・・・Speaking Test

<2>各グループによる発表

[利点]・絵などで視覚的にとらえるため、生徒の興味・関心がかかる。

- ・画面を使えるので、クイズ形式で楽しめる感じがよい。

- ・Flash Englishは、定期テストの並び替えの問題を解く力がつきそ

うである。

- ・画面がカラフルにできるので集中して授業を受けることができる。
- ・文の構造を日本語にするのはわかりやすい。
- ・視覚を刺激して授業を行えるのがよい。
- ・**Speaking Test** の評価が一定になるのでいいと思う。

【課題点】・手作業でやっているのであれば、作成に時間がかかってしまうのではないか？

- ・電子黒板がない。
- ・発音するときに、生徒はテレビの画面ばかり見て、教師が生徒の顔を見ないで発音練習するのはどうか？
- ・ICTの移動に時間がかかるのではないか？
- ・大規模校では、TV使用が重なるのではないか？
- ・パワーポイントでも代用して、**Flash English** は1つ1つ作成できるのか？
- ・生徒数が増えてきたらTV画面が見にくくなるのでは？
- ・音読練習のパターンは、一定になってしまうのでは？
- ・2、3年生となると英文が長くなってくると思うが、実際には生徒達はどうしているのか？
- ・付箋の貼り方が、単語だけであれば単語練習になる。フレーズで付箋を貼るのもいいのではないか？

## 2 iPad の操作練習

- ・大阪教育大学より10台借りたiPadを使っのICT機器体験練習

## 3 各校の実践報告

1. 上町・・・ICTは使っていない。
2. 南・・・毎時間TTを行っている。1学期は試しで少人数で授業を行ってみた。
3. 東・・・LL教室でモニターを使い、少人数授業を行っている。モニターで本文の大事なところを示したりしている。電子黒板は使っていない。
4. 西・・・特にICT機器は使っていない。LL教室でビデオを見せる程度にとどまっている。
5. 堀江・・・生徒数が増加中で、空き教室がなく少人数や習熟度別は対応が不可能。段差の多い学校なので、ICT機器を移動するのも困難である。  
教室内で、グループ活動に重点を置いている。
6. 花乃井・・・TTを週一回、習熟度はテスト前に集中して行っている。
7. 築港・・・小規模校なので、空き教室がたくさんあり分割授業を行っている。1年生でフォニックスを重点を置いて行っている。
8. 港・・・学校の状況が生活指導上で分割で移動させるのが難しくなってきた。プロジェクターを使う教科が他教科にもあり、取り合いになっている。
9. 港南・・・ICTは活用していない。他教科も同じ状況である。  
1学期3年、2学期2年、1学期1年で分割授業を行った。  
学年をまたがっている教師が大変である。
10. 大正東・・・ICTは活用していない。フラッシュカードやピクチャーカードを活用している。C-NETがPCとプロジェクターを使って、ICTを活用して授業を行ってくれている。
11. 大正北・・・C-NETが自己紹介をPWPを使って行い、初のICT活用の試みが

あった。学力は低いですが、意欲はあるのでICTを活用していきたい。

#### 1 2. 大正中央・・＜PWPによる実践報告＞

協同学習の取り組みに力を入れていて、わからない生徒が質問しやすい場を作ってやる状況を無理なく提供できるように心がけている。佐藤学さんという人の講演などを聞き、全学年でその指導方法を取り入れるよう頑張っている。

英語科では、デジタルテキストを使って単語練習・本文練習を行い、ICTを活用している。また、どのレベルの生徒にも取り組める内容の教材を作り、対応している。

#### 6. 成果と今後の課題

- ・タブレットを大阪市内全校への配置というのはかなり大規模な取り組みとなるため、すぐにとは難しい。
- ・ICTの活用に関しては、教育センターはいつでも相談に乗りたい。
- ・英語イノベーション事業の充実
- ・C-NETの活用
- ・English Dayの1日体験の宣伝・・今回は英語落語にチャレンジ
- ・がんばる先生支援・・今年でオーストラリア研修は2年連続実施  
教育センターフォーラムでの研修報告予定
- ・平成27年度より、C-NETも受講できる大学英検対応の講習会も実施予定